

現代の茶室

長野匠
指導教員 八尾廣
建築計画研究室

1. 研究の背景と目的

茶室は千利休が侘び好きの茶室として完成させてから、古田織部、小堀遠州、織田有楽、などその後の茶人達によって様々な茶室が作られてきた。明治維新によりそれまで茶道を嗜んでいた大名がいなくなり、茶道は一度衰退したが、明治期以降、裏千家十三代円能斎鉄中などの努力により、女性の教育科目として普及し現在に繋がっている。昭和に入り、日本の代表的な近代建築家である堀口捨己、谷口吉郎、村野藤吾らが茶室を再評価し、当時の現代的価値から再設計した。それ以降、安藤忠雄や藤本照信をはじめとする建築家たちや様々なアーティストが茶室に着目し、伝統的空間を現代的価値観から変化させながら継承しつつ新しい空間が生まれている。そこで、日本に建築家と呼ばれる人たちが現れた近代から現代までの茶室に着目することで茶室の変遷とあり方を調査する。

2. 研究対象・方法

建築雑誌「新建築」の創刊時からのバックナンバーに掲載された茶室建築について、建築作品インデックスにてカテゴリ「茶室」で検索、新建築データベース β 版にてキーワード「茶室」で行い事例を抽出した。本研究では現代の茶室をテーマとしているため、上記事例のうち「純和風建築」、「既存茶室」、「既存茶室の再興」に該当する事例を除いた合計 52 作品を研究対象とした。各作品について、「茶室の解明 平面データ集」¹⁾を参考に、茶室の伝統的な畳敷きのカテゴリーである「小間」、「四畳半」、「広間」、「立礼」の用いられている状況を表にまとめた(表1)。なお、床仕上げに畳が用いられていない作品については「その他」として分類した。この表を元に、現代の茶室の変遷と傾向について考察した。

3. 新建築における茶室の掲載数の変遷

図1は2.により抽出された茶室事例の数について年代別にまとめものである。茶室の掲載数の増減に着目すると、以下4つの期間に大別することができる。まず、1960年代以前に見られる事例は先に述べた堀口捨己や、谷口吉郎、村野藤吾など、日本の伝統的建築の近代化を目指した建築家たちによる作品である。1960～1970年代においては茶室の事例がほぼ見られない。この

頃はモダニズム建築がより盛んになったことから、茶室が話題に上がることがなかったのだと推測される。そして1970年代末頃から徐々に件数が増えてゆき、1980年代には多くの茶室が設計されている。この時期は日本経済のピーク期にあたり、ホテルや旅館などに付属する形での茶室事例が増加している。安藤忠雄や原広司といった名建築家が設計した作品が発表されたのもこの時期にあたる。1990年代以降は、概ね一定数の茶室あるいは茶室の付属する作品が掲載されていることがわかる。

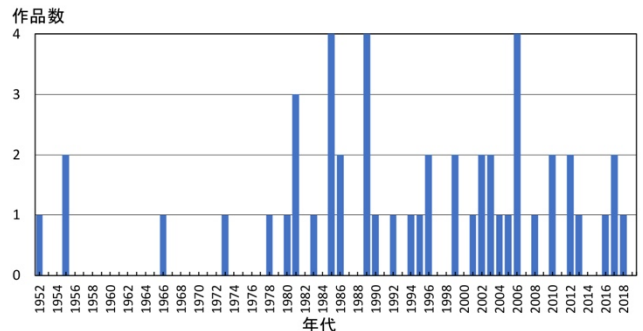


図1：新建築に掲載された年別茶室作品数

4. 各年代における現代茶室の傾向

4.1 茶室の近代化

1950年代から1980年代にかけて茶室を設計した建築家については、吉田五十八、堀口捨己、村野藤吾、吉村順三、黒川紀章が挙げられる。この時代は日本建築の近代化がテーマとして日本的な近代建築の追求が多く、建築家たちによってなされてきた。特に近代化の流れをすでに受け生活にも反映しやすい数寄屋建築が着目されており、茶室についても、伝統的な日本建築の手法を残しつつ近代化の様々な手法やデザインが試みられている。例えば吉田五十八の壁のデザインは、和風のデザイン要素から多くの線を省略することで数寄屋のミニマル化を果たし、村野藤吾は銅板葺き入母屋の形状において、限りなく薄く、かつ軒の出を深く出す斬新なデザインを再現した。吉村順三は矩計図を用いた合理的な設計から、伝統性と近代化の無理のない共存を実現した。1950年から1980年をひとつの括りとして「茶室の近代化」といったことが言えるだろう。

4.2 高度経済成長期の茶室

1980年代からは、建築形態として店舗やホテルなどに付属する形での茶室が多く見られるようになる。これは

日本の高度経済成長期と合わせて、茶道がより庶民に広まるとともに、セレモニーの場として茶室が付属されるようになっていったことがわかる。

4.3 安藤忠雄以降の茶室

次の茶室の大きな変化として、安藤忠雄による「大淀の茶室」以降の時代が挙げられる。それまでの茶室はあくまで近代的な手法や素材による設計は試みられてきたが、茶道を行うための機能を持つことを前提として設計されているが、安藤忠雄が自らの自邸に設計した「大淀の茶室」では素材の持つ特性を生かし、茶道を行うための機能はほぼないものの、茶室という極小の建築をだからこそ行える抽象的で大胆なデザインがなされた。それ以降、多くの建築家が茶室の持つポテンシャルと自由さに着目し、設計、創作の対象となっている。

4.4 藤森照信の茶室

2003年から藤森照信の茶室が多く見られる。藤森照信は表でもわかる通り2003年以降7件と最多の茶室が掲載されている。表1の畳の分類からわかるように、それまでの畳敷きの形式から脱しており、重要なのは火と水とシェルターの要素であることとして、自由な平面設計と縄文時代の高床式や竪穴式住居のような歴史的かつ土着的なデザインがなされている。

また、すべての茶室を設計者自らが施工に携わっており、中にはイベントを開催して全くの素人と一緒になって施工をするなど、建築を自らの手で造るという行為も重要なファクターとして捉えている。

5. 畳のタイポロジー

畳のタイポロジーの分類によって、藤森照信によって初めて「畳のない茶室」が創作されてから、それまで既

存概念として茶室には畳があるものだということが、平面空間、人の動きや導線を限定づけていたことがわかった。

また、安藤忠雄以降の「抽象的な茶室」の多くが小間、四畳半であることから、建築家がコンセプトチュアルな茶室を設計する上では四畳半以下の小さな建築が対象となりやすいことがわかった。

6. まとめ

1950年代から茶室が建築家によって着目され、様々な手法で近代化をされたことがわかった。

高度経済成長期に商業ビルなどに付属される形のセレモニーとしての茶室が設計されていることがわかった。

1980年の経済のピーク時に安藤忠雄が、伝統的な茶室に縛られない「抽象的な茶室」「概念的な茶室」を提案したことから、多くの建築家が茶室に着目するようになったことがわかった。

藤森照信が初めて畳の縛りを解いた茶室をつくり、畳によって縛られていた伝統から脱出を図り、より自由な茶室を提案したことがわかった。

今回の調査では新建築に掲載された事例のみを対象としたことから、他の多くの建築家による茶室のデザインは調査に含まれていない。機会があればさらに多くの建築家たちによる茶室の試みについても調査をしたい。

7. 参考文献

- 1) 茶室の解明 平面データ集成, 根岸照彦, 建築資料研究社, 2001

表1 新建築に掲載された茶室

| 掲載号 | 作品名 | 建築用途 | 機能 | 設計者 | 畳 | | | | | 掲載号 | 作品名 | 建築用途 | 機能 | 設計者 | 畳 | | | | |
|--------|--------------------------|-------|----|---------------------|----|-----|----|----|-----|--------|-------------------|--------|----|----------------------|----|-----|----|----|-----|
| | | | | | 小間 | 四畳半 | 広間 | 立孔 | その他 | | | | | | 小間 | 四畳半 | 広間 | 立孔 | その他 |
| 195201 | 新しい茶室の一試案 | 茶室 | 独 | 谷口吉郎 | | | | | | 199509 | 新橋・松山 | 料亭 | 付 | 坂垣元彬建築事務所 | | | | | |
| 195506 | そごう百貨店茶室 | 茶室 | 独 | 村野藤吾建築事務所 | | | | | | 199601 | 豊田市美術館茶室(豊祥庵、一步亭) | 茶室 | 独 | 谷口建築設計研究所 | | | | | |
| 195506 | 裏千家の新茶室(京都) | 茶室 | 独 | 初瀬川松太郎 | | | | | | 199606 | 茶苑 海月 | 茶室 | 独 | 吉村順三設計事務所 | | | | | |
| 196601 | 茶室・間居 | 茶室 | 独 | 堀口捨巳 | | | | | | 199911 | 馬場花木公園 横浜の茶室 | 休憩施設 | 付 | 大江匡/PLANTEC 他 | | | | | |
| 197308 | 高島屋東京支店茶室 | 茶室 | 独 | 村野・森建築事務所 | | | | | | 199912 | ビビア庵 | 茶室 | 独 | 出江室/出江建築事務所 | | | | | |
| 197808 | 鎌倉山の茶室 | 茶室 | 独 | 吉村順三 | | | | | | 200107 | 楳原 | 茶室 | 独 | 有馬裕之+Urban Fourth | | | | | |
| 198005 | 香樹荘・栗明荘 | 厚生施設 | 独 | 黒川紀章建築都市設計事務所 | | | | | | 200201 | 猿蓑俱・茶室 | 茶室 | 独 | 内藤廣建築設計事務所 | | | | | |
| 198107 | 匠寿庵 | 店舗 | 付 | 海藤建築事務所 | | | | | | 200201 | 楳原 | 茶室 | 独 | 富樫克彦/富樫デザインスタジオ | | | | | |
| 198112 | 大田黒公園 茶室・休憩所 | 休憩所 | 付 | 大関徹建築設計事務所 | | | | | | 200307 | 一夜亭 | 茶室 | 独 | 藤森照信+大嶋信道(大嶋アトリエ) | | | | | |
| 198107 | 新喜楽 竹の間 | 料亭 | 付 | 坂垣元彬建築事務所 | | | | | | 200307 | 炬屋 | 茶室 | 独 | 藤森照信 | | | | | |
| 198301 | 四季 ジャパン・トータル・クラブ イン戸ノ瀬別荘 | ホテル | 付 | 吉村順三設計事務所 | | | | | | 200409 | 高過庵 | 茶室 | 独 | 藤森照信 | | | | | |
| 198501 | 吉兆 1976・1982 | 料亭 | 付 | 吉田五十八研究室 野村加根夫設計事務所 | | | | | | 200502 | 平成の二畳台目 | 茶室 | 独 | 横河健、国枝東史生/横河設計工房 | | | | | |
| 198502 | 舞の舞台と茶室 | 舞台+茶室 | 付 | 江守崇比古 | | | | | | 200602 | 平山都夫邸 寂静庵 | 茶室 | 独 | 城戸崎建築研究室 | | | | | |
| 198508 | 新高輪プリンスホテル茶寮・恵庵 | 茶室 | 独 | 村野・森建築事務所 | | | | | | 200606 | 茶室 燈 | 茶室 | 独 | 藤森照信+大嶋信道 | | | | | |
| 198510 | 無量庵 | 茶室+料亭 | 付 | 土岐新建築総合計画事務所 | | | | | | 200606 | 香蘭女学校ピカステ記念館 芝草庵 | 茶室+記念館 | 独 | 内井建築設計事務所 | | | | | |
| 198608 | 開運堂 松風庵 | 茶室+店舗 | 付 | 竹中工務店・東京 | | | | | | 200609 | tea house | 茶室 | 独 | 五十嵐淳建築設計 | | | | | |
| 198610 | 料亭・板木家 | 料亭 | 付 | 野村加根夫設計事務所 | | | | | | 200802 | 佐川美術館 樂吉左衛門館 | 美術館 | 付 | 樂吉左衛門+竹中工務店 | | | | | |
| 198901 | 大淀の茶室(テントの茶室) | 茶室 | 独 | 安藤忠雄建築研究所 | | | | | | 201009 | 入川亭・忘茶舟 | 茶室 | 独 | 藤森照信 | | | | | |
| 198901 | 大淀の茶室(ベニヤの茶室) | 茶室 | 独 | 安藤忠雄建築研究所 | | | | | | 201009 | 空飛ぶ泥舟 | 茶室 | 独 | 藤森照信 | | | | | |
| 198901 | 大淀の茶室(ブロックの茶室) | 茶室 | 独 | 安藤忠雄建築研究所 | | | | | | 201203 | London Gallery | ギャラリー | 付 | 新素材研究所 杉本博司+神田健之 | | | | | |
| 198904 | 遊喜庵(大澤屋茶室) | 茶室 | 独 | 原広司+アトリエファイ | | | | | | 201203 | 茶室 今葉堂 | 茶室 | 独 | 新素材研究所 杉本博司/神田健之 千宗隆 | | | | | |
| 198904 | 木村記念館(又庵) | 美術館 | 付 | プランテック総合計画事務所 | | | | | | 201306 | 東山植物園 宗節庵 | 茶室 | 独 | 木内修建築設計事務所 | | | | | |
| 198910 | 平成庭園・源心庵 | 茶室 | 独 | 日建設計・東京・野村加根夫 | | | | | | 201609 | ホテルの湯屋 | 茶室 | 付 | 高崎正治都市建築設計事務所 | | | | | |
| 199006 | 松籟亭-喜海浜公園日本庭園 | 茶室 | 独 | 野村加根夫設計事務所 | | | | | | 201706 | 草庵建築 茶室「積翠亭」 | 茶室 | 独 | 山本良介アトリエ | | | | | |
| 199201 | 防府天満宮茶室 芳松庵 | 茶室 | 独 | 大江宏建築事務所 | | | | | | 201712 | 小田原文化財団 江之浦測候所 | 茶室 | 独 | 新素材研究所 杉本博司+神田健之 | | | | | |
| 199410 | 松栢亭(栢の葉公園茶室) | 茶室 | 独 | 野村加根夫設計事務所 | | | | | | 201801 | 低過庵 | 茶室 | 独 | 藤森照信 | | | | | |

注)機能の項目において、独は独立型、付は付属型をあらわす。建築形態が店舗や料亭、ホテルなどにおいて一部の機能として茶室が組み込まれている事例を「付属型」建築の形態が茶室のみ事例を「独立型」とする。